



▲「鬼一法眼三略巻」の1場面

名演技に拍手かっさい

9月15日の敬老の日に、はなのき会館において「第19回郷土歌舞伎公演」が行われ、村内外から600人を超える郷土歌舞伎ファンが詰めかけました。

今年役者として舞台上上がった皆さんは、小学校1年生の安江礼さん（神付）から92歳の安江正史さん（神付）まで総勢46人。プロ顔負けの名演技もあれば、中には、緊張のあまり思わずセリフを忘れてしまうような場面もあるなど、皆さんの演技に万雷の拍手が贈られました。

（関連記事6、7ページに掲載）



時代劇「皚の母」は新しい試み



かわいらしい演技にわいた「糸桜本町育」

広報 ひがししらかわ

1995 10 No.412
平成7年

人口の動き	
—9月末住民登録人口から—	
世帯数	908世帯
人口	3,374人
転入	2人
転出	2人
出生	0人
死亡	3人
先月と比較して3人減	
昨年同月と比較して38人減	



神田神社の伶人の皆さん

まつり

祭も支えらる 男たち

秋は、全国各地で「お祭り」のシーズン。

今月は、神社のお祭りでも、

雅楽を演奏される「伶人」の皆さんに

スポットをあててみました。

神道村ならではの 珍しい制度？

「さすがにこの村は、お寺が一つもない神道の村だけあって、結婚式の時雅楽の生演奏があることには驚きました」。これは、以前ある新婚カップルを取材した時、村外から嫁がれたお嫁さんが話してくれた言葉です。

お祭りの際、透き通るような美しい音色を奏でるこの雅楽の演奏、この雅楽を演奏されるのは、伶人の皆さんです。村には、神田神社、越原神社、五加神社の各お宮に、それぞれ伶人があります。こうした制度は、村外ではあ

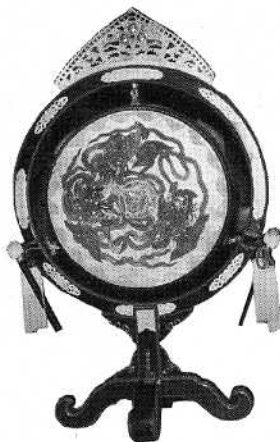
まり見られないもののようにです。

神田神社の宮司村雲巖美さん（中通）にお話を伺ったところ、「村外の神社からお祭りに招かれて行っています、ほとんどが雅楽をテーマで流されています、独自の伶人を持つ神社は、近隣では、苗木にあるくらいで加茂郡内では東白川村だけではないでしょうか」とのお話。また、県内の神社を包括する岐阜県神社庁に、電話でお尋ねしたところ、現在県内には大小合わせて三千余社のお宮があるそうですが、わかる範囲で、伶人を持って雅楽を演奏する神社は九十社程度とのこと。

私たちの村は、明治の初めに起きた

雅楽に使われる珍しい楽器

楽太鼓



笙



竜笛



篳篥



※これ以外にも雅楽では、和琴、琵琶、楽箏などの楽器が使われますが、村では右の四種類を使用。

廃仏毀釈によって、今でも村内にお寺が一つも無く、ほとんどの家庭では、冠婚葬祭の全てを神道で行っています。県内でも珍しい伶人制度は、こうした背景があるからなのかもしれません。

雅楽は、千二百年余の

歴史を持つ日本の古典音楽

雅楽について調べてみると、実に千二百年余の長い歴史があります。

雅楽は、七世紀ころ（飛鳥、白鳳時代ころ）、それまで日本にあった固有の「神楽歌」や「久米舞」、「東遊」といった歌や舞と、その時代に唐（現在の中国）や高麗（現在の韓国）などから伝来した管弦楽器を使った舞楽とが結び付いてでき上がった日本の古典音楽で、七〇一年完成したといわれている日本古代の基本法典「大宝律令」の中の治部省という官庁の中に「雅舞寮」という機関も設けられていました。

また、七五二年行われた奈良東大寺の「大仏開眼供養」の際には、盛大に雅楽が演奏され、一万点余の御物が納められている東大寺正倉院には、当時使用された雅楽の楽器などの道具が約八十点収蔵されているとか。

雅楽は、七世紀以降、明治時代になるまで浮き沈みを見ながらも、少数の家で「秘伝」として伝えられていました。が、明治六年になって大改革があり、それまでは、華族と決められた楽人以外は許されていなかった伝習が、一般でも許されるようになり、それ以来、

神社やお寺で雅楽が伝えられ、現在に至っているようです。

千二百年という長い歴史を持つ雅楽ですが、一般の人が行うことが許されてからは、わずかに百三十年足らず。それまで楽人と呼ばれていた演奏する人たちのことを「伶人」と呼ぶようになったのも明治の初めからのこと。

ところで、村には、いつごろから伶人の制度ができたのでしょうか。

越原神社の宮司今井好美さん（西洞）にお話を伺いました。「越原神社では、神土や五加より数年早くできていたようですが、村の三つの神社に伶人が全てそろったのは、昭和十五年のことです。この年は、皇紀（日本書紀の紀年に基づき、初代神武天皇即位の年を元年と定めた日本紀元）二六〇〇年というおめでたい年で、全国各地で奉祝行事があり、村でもそれを祝してどの神社も楽器や装束など全てをそろえられました」。また、五加神社の宮司安江益良さん（柏本）は「神社の記録を見ると昭和十五年は、初めて『浦安の舞』が舞われた年で、これにちなんで伶人が設けられたのでしょうか。ほかの神社でも設けられたはずですが、後継者がなく衰退したのではないのでしょうか」とお話し下さいました。

特殊な楽器と独特の節回しを持ち、かつて皇族や貴族の芸能として、ある意味で高貴な歴史を持つ雅楽は、民間には受け入れにくかった面もあるのか、途絶えてしまった所も多いようです。

〈次ページへ続く〉



五加神社の伶人の皆さん



越原神社の伶人の皆さん

村の貴重な文化として

昭和六十年に 「東白川雅楽会」が発足

村には、神土に五人、越原に五人、五加に六人の伶人の皆さんがいますが、この十六人の皆さんで「東白川雅楽会」を作っています。この会は、昭和六十年に

結成されたもの。

この会の初代の会長を務めた今井直美さん（下野）は、発足について

「昭和六十一年から二年間、明治神宮楽部の方や、全日本雅楽会の皆さんなどが、村へ指導に来て下さいました。それ以前は、

各伶人ともバラバラで活動していたので、同じ曲でも調子が違ったり、また、休むことはできないような状態でした。指導に来て下さることが決まったのでそれを機にこの会を結成しました。今では、例えば越原の人が足りないときには、神土から応



神田殿で行われた全体練習の様子

援に行ったりと、横のつながりもできました」と話してくれました。

伶人の皆さんの活動は、春や秋のお祭りの雅楽の演奏です。その回数は、一年間に、神土が四回、越原が二回、五加が五回、また、持ち回りで、秋の慰霊祭や結婚式でも演奏

しています。皆さんはそれぞれ職をお持ちですから、練習は、祭りのある一日か二日前にするだけだそうですが、祭りの日とは別に、年に数回、会員全員に呼びかけて全体練習を行っています。

十月初めに神田殿で行われた、雅楽会の全体練習を訪ねてみました。

「楽器の管理に一番気を使います」

この日の参加者は七人。出席された皆さんに伶人になった理由を尋ねると、ほとんどの方から「音楽が好きだから」という答えが返ってきました。中には、かつてバンドを組んでいて、そのまま伶人に……という人もいます。

伶人をやっている一番良かったと思えることは「神様の前の仕事

中学生を前に演奏会

昨年十一月、雅楽会の皆さんが、中学校で全校生徒を前に演奏会を行いました。

これは、昨年まで音楽を担当されていた星名晶子先生の発案によるもの。現在、加子母中学にお勤めの先生に話を伺いました。

「生で雅楽の演奏が聞ける機会などは、よそではありませんし、村には本物があり偶然にも会長の安江利英さんが、ご父兄だったこともあったのでお願いしました。演奏ばかりでなく、楽器説明などもしていただいて、生徒たちは本当に興味深く聞いていました」。

雅楽会の皆さんは、この演奏会で約一時間にわたり五曲を披露。「大勢の人前で演奏することなど初めてだったので、すごく緊張した」とのご感想。また、今後は、後継者育成のためにも機会があれば、こうした活動を続けたい、と話してくれました。



中学生を前に行った演奏会は好評

五つの神社が一つになって五加神社に

東白川村となる以前、五加地区は五加村でしたが、この五加村は、明治七年に五つの村（柏本村、宮代村、大沢村、下野村、久須見村）が合併してできたものです。かつてはこの五つの村にそれぞれ、柏本神社、石戸神社、産霊神社、十九折山神社、鎮火神社があり、この五つのお宮が、昭和三十五年柏本神社に吸収される形で合併され、現在の五加神社となりました。現在の五加神社の伶人の皆さんは、スタート時には柏本神社の伶人として、当初は柏本の皆さんだけで組織されていたようです。



柏本神社で伶人創設期の貴重な写真

誇りを持ってできる活動



安江利英さん(44)上親田
東白川雅楽会長

雅楽の演奏は、独特の音色を持っていますから、なじみにくい音楽かもしれませんが、みんな伶人であるという誇りを持ってやっています。今まで引き継がれてきたものなので、将来も村の伝統文化の1つとして、若い人たちに継いでいってもらいたいと思います。

熱田神宮での研修が一番の思い出

伶人をする前は、柏本神社にあった正風会しょうふうかいで獅子神楽の横笛をやっていました。雅楽を始めたころ熱田神宮へ1週間泊まり込みで、研修を受けましたが、終日厳しかった覚えがあります。以前は、伶人で白川町などへも行ったこともあります。



村雲 茂さん(72) 柏本
(五加伶人)
(昭和25年~49年)

祭りの前にみそぎをしたことも……



安江 渉さん(67) 神付
(神土伶人)
(昭和18年~57年)

今でいう中学3年の年の冬から習いました。以前は、蚕を飼っていたので秋祭りのころは、ちょうど盛りで…。40年も続けられたのは、ああいう仕事だからこそでしょう。昔は、お祭りのとき早朝にみそぎがあったことがあり、とても寒かったことを覚えています。

3代にわたる舞姫を見ている

17歳の時から50年近く伶人をやっています。長年やっていると、今、おばあさんになっている方本人と、その娘さん、またその娘さんの3代にわたる舞姫を何組か見てきました。神様にお仕える仕事だからこそ健康でやってこられたのではないのでしょうか。



桂川治彦さん(64) 日向
(越原伶人)
(昭和22年~現在)



伶人の生の演奏で「浦安の舞」を行う中学生の舞姫さん

村の伝統文化として残したい

県内で村と同様に伶人組織のあるところを探したところ、大野郡宮村に「宮村雅楽会」があることがわかり、さっそく同村の教育委員会に話を伺ってみました。

この会のメンバーは、十二人。地元の神社やお寺で年五回くらい演奏を行っているとのこと。この会の大きな特徴は、伶人を行う家が決まっています。その家が代々世襲制で引き継がれていることです。お話し下さった宮村教育課長の谷口吉衛門さんは、「代々世襲ということで、現在は、順調に引き継がれていますが、将来は、保存会のような組織も考えなければならぬ時期がくるのではないのでしょうか」。

現在、東白川雅楽会のメンバーは、上は、六十四歳の桂川治彦さん(日向)から下は三十二歳の桂川一喜さん(陰地)まで、全員の平均年齢は四十四歳。宮村雅楽会と同様に、会員の皆さんの大きな悩みは、今後の会の維持です。

「これから十年くらいは、このメンバーでやっていけるにしても、それから先を考えると…」、「なじみにくいものだけに、もっと若い人にPRして理解してもらおうような活動をしていきたい」皆さんが集まられると必ず交わされる会話です。この後継者育成という面での一つの試みとして、昨年は中学校で演奏会も行いました。

雅楽会長の安江利英さん(上親田)は、「ここは、神道しかないところだからこそ、伶人は途絶えずに残ったのだと思います。確かに演奏は簡単ではありませんが、やりがいのあるものです。村の伝統文化として残すためにもこの活動をもっと理解して欲しい」と話してくれました。

郷土歌舞伎公演



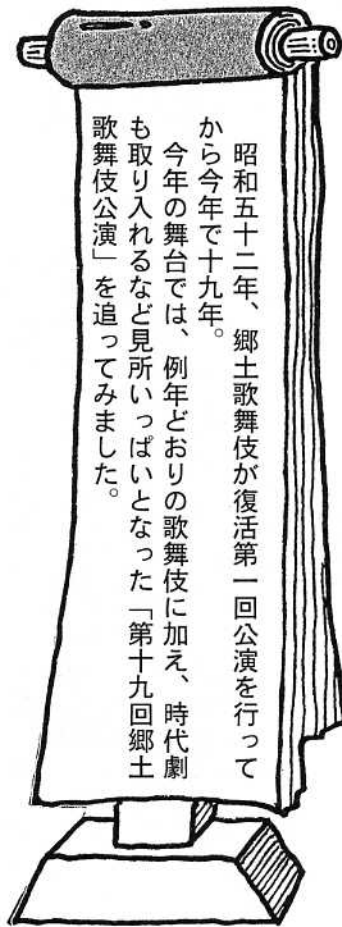
ともに中学2年生山下洋平さん・古田竜也さん（「糸桜本町育」）



安江正史さんも元気に出演（「鎌倉三代記」）



星名晶子先生と糸魚川純さん



昭和五十二年、郷土歌舞伎が復活第一回公演を行ってから今年で十九年。今年の舞台では、例年どおりの歌舞伎に加え、時代劇も取り入れるなど見所いっぱいとなった「第十九回郷土歌舞伎公演」を追ってみました。

若手の初々しさとベテランの円熟味が見事にマッチ

村の秋の恒例行事としてすっかり定着した「郷土歌舞伎公演」。十九回目の今年も見所が盛りだくさんでした。まず、郷土歌舞伎といえば、毎年呼び物の一つに子ども歌舞伎があります。今年の芸題「糸桜本町育」は、小学生六人、中学生三人だけで演じたこともあって例年以上に大好評。子どもたちのかわいらしい演技に会場からは、たくさんの「おひねり」が飛んでいました。

子どもたちが頑張れば、先生方も負けてはいられません。今年舞台上上がった先生は、初舞台となった小学校の兼松教頭先生、宮脇由紀子先生をはじめ、小学校から五人が参加。また「実

は加子母からお誘いがある

ったんですよ」と話してくれた星名晶子先生は、今春加子母中学へ赴任されましたが今年も元気に参加。皆さん見事な演技を披露してくれました。

今年の役者の最高齢者は、九十二歳になる神付の安江正史さん。安江さんは、歌舞伎公演復活後、体調を崩して二回舞台上がれなかったそうですが、今年も元気に参加。見事なセリフまわしに、惜しみない拍手が贈られました。

大明神の林昇さん、安江晴夫さん、安江一成さんの三人に平の田口七郎さんらベテランが顔をそろえた「鬼一法眼三略巻」や平の若井新一さんらが演じた「木下蔭狭間合戦」などは、円熟味のある演技の連続。今年の歌舞伎公演も若手の初々しさとベテランの素晴らしい演技の見事な共演となりました。

郷土歌舞伎に新風を吹き込んだ時代劇「暎の母」

私は、青年時分に当時の青年演劇で歌舞伎もやったし、何度か舞台にも上がったので、自信があったけども若い衆があんばいようやるかが心配でした」と話してくれたのは、歌舞伎公演で時代劇「暎の母」に出演した村雲加

感激！私たちが初出演

いい勉強になった

宮脇由紀子さん

（小学校教諭、「義経腰越状」喜三太役）



一生のうちで、まさかこんな体験ができるなんて考えてもみませんでしたから、演じ終わった後は本当に大感激でした。貴重な勉強をさせてもらっただけです。

温かい声援で：

兼松 悟さん

（小学校教頭、「木下蔭狭間合戦」四ノ下蔭狭間合戦）



宮源吾役）会場からの温かい声援で、緊張のあまりセリフや立ち回りをすっかり忘れ、お世話になった方々に「おん迷惑をおかけしました。来年までにまた勉強したいと思えます。」

長年の夢かなう

今井 勝さん

（大沢、「木下蔭狭間合戦」木下藤吉郎



久吉役）私の亡くなった父が歌舞伎が大好きで、子どものころよく芝居に連れていってもらいましたし、それが楽しみでした。今まで裏方を手伝っていましたが、今年偶然にも舞台上がることになって本当に感激しました。親の供養になったのではないかと思います。

艶やかに



『木下蔭狭間合戦』より、左から今井勝さん、若井新一さん、嶺嶺守章さん



見事な立ち回り、田口七郎さん(『鬼一法眼三略巻』)



『験の母』の1場面

村雲さんの会社、村雲建築は、歌舞伎公演復活後、ずっと舞台装置を作ってきました。今年、村雲さん始め会社の皆さんが舞台上がるきっかけとなったのは、ここ数年客足が減ったことを懸念して新しい出し物をと考えたからとのこと。

「初め団升先生に相談したら、賛成してくれて、脚本を送

夫さん(中通)。歌舞伎公演で時代劇が演じられるのは初めての試み。

って下さったので、それぞれテープを聞いたりしてセリフを覚えま

した。全体での稽古は、七月から二時間づつ七回くらいだったかと思

いますが、お客さんが喜んでくれて本

団升先生も高く評価

歌舞伎公演復活以来ずっと振付指導をされている松本団升先生(73・山岡町)は、太夫さんたちもずいぶんほめていましたし、みんな本当に頑張ったと思いますよ」とのお言葉。



先生は、年間約十か所どころした指導を行われ、また、地域文化功労者として文部大臣表彰を受賞された経験も持つこの道の第一人者。昨年



右端がカニーさん

から舞台となったのはななき会館を踊りやすい舞台」と評してくれました。

青い目のお客さん カブキを見た感想は?

郷土歌舞伎公演には、村内はもとより、村外や県外からもたくさんのお客さんがみ

えましたが、中には外国の方も数人ありました。その中のアメリカ出身のカニー・オカダさんにお話を伺いました。

カニーさんは、日本人男性と結婚され、現在は、名古屋市に在住。今回は、知り合いの紹介で遠路お越しになったそうです。歌舞伎については、「立ち回りや化粧が素晴らしい。歴史的な伝統を重んじている面が貴重ですね」と話してくれました。



芝居を終え、インタビューに答える安江さん

おし せ ら

こんにちは 社協です

福祉について、より一層深い理解をいただくため、十一月二十六日、はなのき会館で第二回社会福祉大会を行います。当日は、福祉に貢献された方々の表彰や小、中学生の福祉体験発表、福祉バザーなどを予定しています。

「豊かな福祉の村づくり」のためにも、たくさんの方の皆さんのご参加をお待ちしています。

岐阜県最低賃金が 改正されました

改正されました

岐阜県労働基準局では、県内で働く全ての労働者に適用される「岐阜県最低賃金」を十月一日から改正しました。改正後の最低賃金は、日額四千九百二十三円（改正前四千八百七十七円）時間額六百十六円（改正前六百三十三円）です。

この最低賃金は、臨時、パートタイマー・アルバイトなどの雇用形態に関係なく、全ての労働者に適用されます。

最低賃金の対象となる賃金は、通常の所定内賃金に限られ、ボーナス等臨時の賃金、休日、時間外などの割増賃金及び通勤手当（交通費）、家族手当、精皆手当は対象となりません。なお、著しく労働能力の低い人などで、岐阜県労働基準局長の許可を受けた人については、最低賃金の適用が除外されます。

詳しい内容については、岐阜県労働基準局賃金課「☎〇五八（二四五）八一〇一内線

三一」もしくは、最寄りの労働基準監督署にお尋ね下さい。

自衛官を 募集します

募集します

防衛庁では、陸・海・空の自衛官を募集しています。

自衛隊の任務は「わが国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、直接侵略及び間接侵略に対しわが国を防衛することを主たる任務とし、必要に応じ、公共の秩序の維持に当たるものとする」と自衛隊法に定められています。

この任務を遂行するため、現在自衛隊では、全国各地の陸に、海に、空に約二十四万人の自衛官が活躍しており、その勢力を維持するため、二等陸・海・空士をはじめ、各種の自衛官などを募集しています。なお、採用に関する概要は次のとおりです。

【二等陸・海・空士応募資格】

採用予定月の一日現在で満十八歳以上、二十七歳未満の日本国籍を有する者で、学校教育法に定める中学校卒業程度以上の学力を有し、かつ自衛隊法第三十八条第一項に定める欠格事項に該当しない者

詳しくは、自衛隊岐阜地方連絡部募集係☎〇五八（二三二）三一二七まで。

COSMOS'95が 行われます

くらし共同フェスティバルCOSMOS'95は、知って、買って得する二日間。岐阜県内と全国のいいもの、生協とっておきの商品が大集合です。

岐阜アパレルの展示や販売、いろいろな体験コーナーなど親子で一日楽しめる企画が盛りだくさんです。

ご家族そろって参加なさってはいかがでしょう。

●と き／十月二十一日(出) 一〇・三〇～一六・〇〇
十月二十二日(日) 一〇・〇〇～一五・三〇

●と ころ／県民体育館
●主 催／全岐阜県生活共同組合連合会

※詳細は、コスモス'95事務局 ☎〇五八三（七〇）六八七五

共同募金運動

ありがとう、みんなのきもち。



ひとりひとりの優しさは、社会の資産です。

保健婦だより

「お酒は、肝臓でなく、頭で飲むコツを！」
 そろそろ「熱かん」が恋しくなる季節。宴会シーズンも間もなくやってきます。飲み方しないで天国へも地獄へも行くお酒。お酒は、肝臓で飲むのではなく「頭」で飲む。そして心が酔ったところでサッと引き上げるのが神髄です。
◆健康的な飲酒
 ①飲酒量の上限を決める。
 ②自分の酔っぱらい度をチェックする。
 ③野菜や魚中心のつまみをたくさんとり、会話を楽しむ。
 ④酒の誘いを断る術も覚える。

十月、十一月は

国民年金制度推進月間

毎年十月、十一月は「国民年金制度推進月間」です。

今やわが国は人生九十年代を迎え、世界有数の長寿国となっています。また、人口構造の高齢化は欧米諸国にも類を見ないスピードで進行しており、平成十二年には、六十五歳以上の老年人口の割合が一五％を超える予想されます。

このような高齢化社会を迎えるにあたって、年金制度は老後における生活設計の柱として、切り離すことのできない必要不可欠なものです。大切な年金をいかに理解するかが、あなたの老後を支えます。この機会に、もう一度年金について考えてみませんか。なお、村の年金相談所の開設は、次の日程で行います。

- と き／十一月十六日(休) 午前十時～午後三時
- ところ「役場別館(村民センター) 経営相談室

※詳細は、役場住民課(有線二一六二)までお尋ね下さい。

「家族そろってご参加を

秋フェスタ95

村の秋の恒例のイベント、

産業祭が、今年から名称を秋フェスタと変え、場所もはなのき会館周辺へ移し、来る十一月十二日(日)行われます。

今年のテーマは「語り継ぐう／村の半生紀」。内容も一段とグレードアップし、「歌でつづる五十年」など新しい催しも盛りだくさん。

見て、食べて、一日遊べるイベントにぜひご参加下さい。

10/31文化講演会

講師は、ダニエル・カールさん

今年の文化講演会の講師は、愉快な山形弁を生かし、テレビ等でなじみのマルチタレント、ダニエル・カールさん。

演題は「私の大好きなニッポン」です。

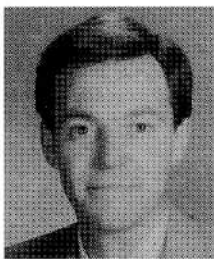
秋の夜長に文化講演会にぜひお出かけ下さい。

- ◆と き／十月三十一日(火) 午後七時から

- ◆ところ／はなのき会館

- ◆入場券／前売八〇〇円(当日一〇〇〇円)

- ◆販売先／沢木の店、富士屋商店、JA越原支所、教育委員会



ダニエル・カールさん

みんなで作ろう

安心の街

十月十一日から二十日までは、「全国地域安全運動」の期間です。この運動は、警察と岐阜県(地区)防犯協会、関係機関団体及び地域の皆さんとが一体となって、地域安全活動を集中的に実施して、犯罪・事故・災害等の不安のない「安全で安心して生活のできる地域社会」を実現することを目的として全国一斉に実施されるものです。

「暴力追放」「少年の非行防止」「地域住民に身近な犯罪の防止」が重点目標です。

けいじぼん

【戸籍】 (敬称略)

- いつまでもおしあわせに
 [熊崎 基博 (下野)
 田島 智子 (可児市)]
- おくやみ申し上げます
 安江 峰夫 68歳 (中通)
 村雲 和男 62歳 (柏本)

【善意】 (敬称略)

- 【畑総、柏本・宮代線農道整備事業指定寄付】
 現金80万円＝今井春雄(岐阜市)
 【社会福祉協議会へ】
 現金21,000円＝立正佼成会中津川教会加茂支部 東白川地区
- 現金15万円＝栗本忠一(柏本)
 現金109,600円＝山田土建(株)従業員一同
 ぞうきん＝安江八重子(柏本)
 【せせらぎ荘へ】
 電気ポット2個＝東白川郵便局・美濃越原郵便局
 【東白川小学校へ】
 児童用図書332冊＝西濃運輸・田口福寿会、田口利夫(大垣市)
- ぼかし5袋＝安江たがゑ(日向)
 えんぴつ800本＝JAみのかも東白川支店
 【東白川中学校へ】
 花台1台＝東白川中学校第9期卒業生一同
 【神土保育園へ】
 マーチングバンドドラム用つりバンド6、総指揮棒1
 ＝神土保育園保護者会一同
 【五加保育園へ】
 栗11キロ＝安江辰也(宮代)

TOPICS

汗

軽スポーツや演芸に
大いに沸いた老人まつり



力が入ってこんなシーンも
(風船割り)

んが参加、楽しいひとときを過ごしました。

式典に続き行われた玉入れや輪投げ、風船割りなどの軽スポーツでは、七つの老人クラブの対抗種目ばかりとあって、選手の皆さんは大ハッスル。どの競技も白熱した戦いとなりました。村には、現在九十歳以上のお年寄りが二十八人あります。この日、まつりに参加した男性の最高齢者は、九十四歳の今井倉太さん(平)。また、女性は、八十八歳の桂川繁子さん(日向)。

このお二人とこの日参加した八十七歳以上の四人の方には花束が送られました。午後からは、カラオケあり踊りありの演芸会。昼食時のお酒もちょっぴり手伝って最後まで大盛況でした。



玉入れゲームは接戦の連続

去る、九月二十日、可茂地区

商工会婦人部合同講演会がはなのき会館で行われ、約二百人の皆さんが詰め掛けました。



熱弁をふるう市田先生

この講演会は、毎年可茂地区九町村の商工会婦人部が、持ち回りでやっているもの。

今回の講演は、「しゃっきりとしなはれ、輝いて生きる」と題して、お茶のコーディネーターで大人気の服飾研究家、市田ひろみ先生をお迎えしました。先生は、大映ニューフェイス第十期生として、女優の経験をお持ちのほか、服飾研究家、大学講師など多方面にその才能を発揮しているキャリアアウーマン。

講演では、コーディネーターの裏話や女優時代の経験、引退後、着物の着つけ指導を始められたころの体験などを交え、京都弁を使って、ユーモアたっぷりに話され、聴衆を魅了しました。



ユーモアたっぷりの語り口に場内は和やかムード

話

演題は「しゃきつとしなはれ」
商工会婦人部講演会

山

大切な財産を生かすために！
第二回森林教室



伐採について語る
村雲辰善さん

プが後継者などに呼び掛けて行っているもの。

この日は、下野林道へ行って作業車運搬用車輻「Mトラライナー」(モノレール)に参加者を乗せ、五加から越原までが一望できる頂上で、講演会という予定でしたが、台風十四号の影響で当日は雨。四十八度の急傾斜を力強く登るMトラライナーは来年のお楽しみとなりました。予定を変更し、こもればの館で行われた教室では「山の魅力」や「枝打ちの必要性」、「森林クイズ」、「間伐と伐採」などを実技を交えながら林業グループの皆さん七人が講演。

この日は、参加者の中に「山仕事を勉強したい」と小学校の高井校長先生はじめ四人の先生方も参加。

「次回は、ぜひ山で実技を」という声の高まった教室となりました。



高井校長先生も枝打ち体験

話題集まれ!

卵

東白川っ子のパワーに圧倒 岐大教育実習生が来村

九月二十六日から三日間、岐阜大学教育学部の皆さん二十八人が小学校と中学校で教育実習を行いました。これは、「地方教育実習」というもので、毎年卒業年次の四年生を対象に行われています。村の小中学校へこの地方教育実習の学生が訪れるのは平成三年以来のことです。小学校で一日半、中学校で一日半の内容でしたが、初日は、授業の参観や児童、生徒との対面式が中心、二日目には、各学年に分かれ、代表の学生が教壇にたつて授業を行いました。いわゆる先生の「卵」の皆さん。授業では、少々緊張きみでしたが、各自で研究して作った教材などを使って大奮闘。一方、子どもたちにとっては、先生というより「おにいさん」「おねえさん」という印象のほうが強いのか、たった二日間とはいえずっかり実習生の皆さんと打ち解けて休み時間には、手を引っぱって校庭へ。

都会の学校で行う教育実習とはひと味違った体験になったことでしょう。



教壇に立つ姿が初々しい実習生

夢

商品開発は消費者のニーズを考え むらおこし講座始まる

九月二十九日、商工会館で「第一回むらおこし講座」が開かれ、商工関係者など約二十人が参加しました。

この講座は、山村担い手・産業育成促進事業の一環として行われたもの。

初回の講師は、三菱自動車工業(株)商品開発室主幹、丸林慎太郎さん。丸林さんは、昨年十二月の発売以来、大人気の「パジェロ・ミニ」の開発に携わられた経験をお持ちで、この日のテーマは「マーケティングと商品開発」。パジェロ・ミニの開発の背景を中心にした講座でした。

四年の歳月をかけ完成したこの自動車は、当初、月売上台数三五〇〇台を目標に取り掛かったようですが、爆発的な人気を得て現在までに約八万台を売り上げるほどの超人気車に。このように大成功した秘訣は、消費者の欲求を念頭に研究することから始まったことなどを自動車の開発行程や裏話なども交えて約一時間半の講義。目標こそ違うものの村おこし産品開発などにも通じる面もあり有意義な講座となりました。なお、この講座は、三月まで毎月あります。興味あるテーマの際には、ぜひご参加下さい。



オーバヘッドを使って説明する丸林先生

職

思っていたより…… 中学校職場体験

去る十月三日、中学生の皆さん三十八人が、「職場体験」を行いました。この試みは、平成四年から行われており、中学生の進路に関する学習の中で「職業を知る」ことを目的にしたもの。



印刷屋さんではデザインに挑戦

この日は、保育園や病院、せせらぎ荘などほもとより、印刷業や土木関係、畜産関係や獣医などにいたるまで、村内の二十二の事業所に分かれて、それぞれの仕事を体験しました。

この職場を決めるにあたっては、生徒たちが自身が興味を持つ職場を選び、また、その事業所を事前に生徒たちが訪ね、時間のことや内容のことなどを打ち合わせて決めたものです。

パトカーに乗り村内の巡視に出た今井忠樹さんは、松岡幸祐さんは「警察官になりたいので希望しました」と話してくれましたが、仕事の内容もさることながら、きつと良い思い出となったことでしょう。



あこがれのパトカーに乗って出発



郷土歌舞伎公演舞台裏より

今月の笑顔さん

「勿体無い」という言葉が忘れられた昨今、稲の落穂を拾うことも無くなつて「落穂」という季語も消えるのでしょうか。季語は残つてもそれを使って句を作れることはもはや想像の世界でしかできないのでしょうか。ただ、いただいて老の拾へる落穂かな 細木七角屋

ミレーの名画「落穂拾い」を彷彿とさせる句ですが、ただ、いただいては、神仏に対しておそれおおくもつたいたいという意、拾える落穂かなは、物の値打ちが生かされ無駄になるのがもつたいたいという意、短い句の中にふたつの「勿体無い」が込められていると思うのも、時代に遅れた感覚でしょうか。

風よよと落穂拾いの横髪に 西東三鬼

みんなが公園…のよつたなよ入るージ

「はじめて歌舞伎に挑戦して」

佐藤 数子(坂祝町)

今、ビデオを見ながら、先日の余韻に浸っている私です。坂祝から飛び入りおばさんをお仲間に入れていただき、感謝、感謝でございます。口調も立ち居振る舞いも様にならず、一緒に出演された役者の皆さんには迷惑ばかりかけて本当に申し訳ございませんでした。何しろ、見ることも、聞くことも初めてのことばかりでした。でも、関係者の皆さんは、こんな私に、面倒くさがらずに、本当に親切に教えて下さいました。

心温かい、人情味のある村の方々と巡り合えたことは、私の長い人生のうち、最も貴重な体験だったと思います。本当に何にも優る幸せ者でした。東白川村に何人も親戚ができたような気分でおります。ありがとうございます。

来年は、客席から大きな声援を送りたいと思います。楽しい思い出をありがとうございます。

お便り



歌舞伎初挑戦の佐藤さん

職場から

松茸

「秋」といえば実りの秋、食欲の秋。新鮮な旬の味覚が食卓を賑わせる季節です。

今月は、



松茸の出荷がはじまった美濃加茂農協東白川支店を訪ねました。

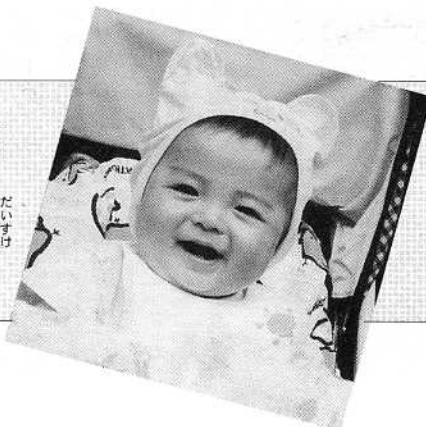
農協へ出される松茸は、岐阜市から来る卸業者の丸共さんが買取られ、最終的には、贈答用の商品として、高島屋などの百貨店に並ぶそうです。

今年、夏の日照りのせい、例年と比べるとかなり出が遅いです。かつて最盛期には、高山線の列車に松茸専用の貨車が一台出たほどでした。この村に限らず、全国的に数が減ってきたのも、環境の変化によるものではないでしょうか。とは丸共さんのお話。

松茸は、庶民にとっては、ますます「高値の花」のようです。



わが家のスター



伊藤 大輔くん
(保夫さん・久仁子さん
|| 日向)

2 ツーショット

新婚さん



熊崎基博さん・智子さん（下野）

「九月十六日にゴールイン」今月は、新婚ホヤホヤのお二人、下野の熊崎基博さん、智子さんご夫妻をお訪ねしました。

基博さんと、智子さんが知り合ったのは、昨年の十二月。美濃加茂市古井にお勤めの基博さんの職場へ奥さんの智子さんが、用事で立ち寄られたのが初めての出会いだったとか。その後、話はとんとん拍子に進み、今年二月には、婚約となったそうです。「よく気が付くし、経済観念がしっかり

している人」とご主人が評せば、「優しいところですね」とは、奥さんのご意見。可児市ご出身の奥さんは、仕事の関係で以前、村を訪れたことがあったそうなので、地名は知っていたそうですが、ここが「村」だということとは結婚を決めるまで知らなかったとのこと。お子さんについては、男の兄弟で育ったご主人は男の子が、三人姉妹の奥さんは、女の子がご希望とか。下野にさわやかなカップルの誕生です。

今月のことば

たっぷりと、おしゃべりしたあと、買物に出がけに「何か買ってくるもんある？」と息子に言ったら「耳栓がいい」と、やられた。話好きのおふくろ（朝日新聞、いわせてもらおうより）



宮代

「宮代」は御社が転化したものであろうか。中世期創建といわれた旧石戸神社の所在地であり、今でもその付近を「社辺」と呼んでいる（新修東白川村誌より）。旧石戸神社の「お膝元」ということからこの地名がついたとされる宮代地区。ここにはかつて旧石戸神社の別当寺、妙観寺というお寺がありました。この寺は、室町時代文明年間（二四六九―八七）の創建といわれ、真言宗とも天台宗ともいわれ、また修験道の寺院であったという説もあるとか。大正三年発刊の「旧村誌」によれば、「妙観寺常清入道政近と申す者、僧にして武家に仕官し」とあり、室町末期の戦乱期には、寺というより土豪的存在だったようです。慶長五年（一六〇〇）、関ヶ原の合戦で政近は戦死、妙観寺は以後断絶しました。

図書室発・あなたへ



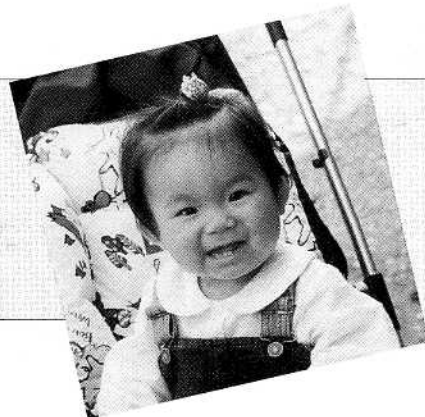
「びんぼう草」 群 ようこ著

『びんぼうなるままに日暮し、原稿にむかひて、男もすなる小説といふものを、女もしてみんとするなり』。びんぼう暮しと独身生活。楽じゃないけどやめられない！会社づとめはもう嫌だ。結婚なんかしたくない。失恋は得意。ネコ大好き。心当たりのある方、あなたが主人公です。特別な一日より平凡な毎日を応援する痛快小説集。

ホットアングル



10月2日、小学校で運動会が行われました。最近、運動会にレクリエーショナルな種目が増えていますが、写真は、1年生の「おにたいじ」。鬼を書いた発泡スチロール目がけて、円の外紙を丸めたボールを当てて倒すもの。簡単そうでこれがなかなか当たらない。子どもたちの懸命な姿が印象的でした。



上田 遥ちゃん
（浩之さん・真由美さん
II平）

発表の作品

犬引きつ引かれつ秋の風の中
 今日も無事天高く雲映えて
 猛暑にも延びる雑草今日も刈る
 やっと降る喜雨にほっと夜のしじま
 夏の雨傘入り乱れ大手門
 汗拭きて気力で歩む皇居内
 そっと独り歩いて見たき良夜かな
 新涼の深まり今朝は足冷ゆる
 秋立つや地祀りの幣鎮もれり
 鮎落ちて川面に映る空の青
 野苺や我を童心に戻しけり
 水打つやホースしぶきと虹を吐く



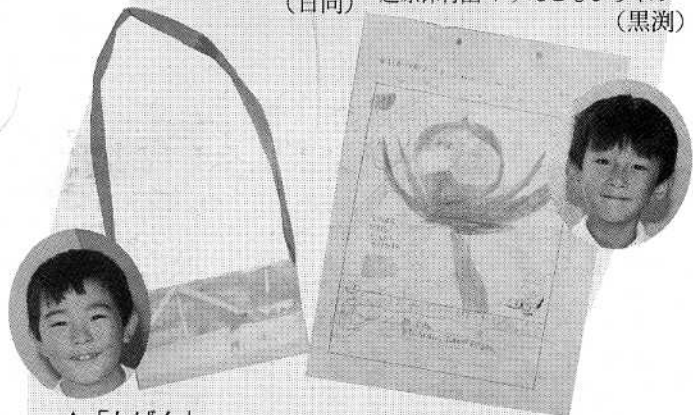
▲「うみのなかのいきもの」
 越原保育園 やすえみなみちゃん (日向)
 ▲「うみのなかのいきもの」
 越原保育園 やすえともひろくん (黒瀨)

日向 安江一滴水
 栃山 安江市助
 栃山 桂川喜郎
 加舎尾 新田義男
 平 安江武子
 平 今井統子

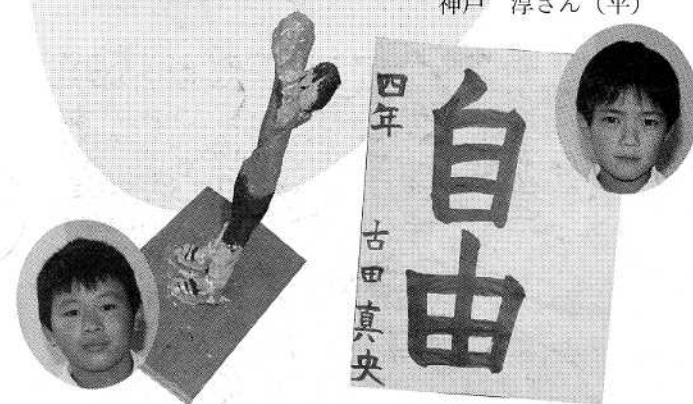
地芝居や幼き日の事父母の事
 無人駅急行が行き秋の風
 素通りすわが頭へこつんと青き柿
 水打つや大きな口開け孫の靴
 雷雲や魚いっぱいのうけあげる
 蛸や枯れに枯れたるダム眠る
 残暑光池の栓抜く屋下がり
 建舞や榎も緩む花曇り
 霧襖覆へる嶺へ眺の色
 木の橋へ瀬音しみ入る夏の月
 朝刊へ添ふ昨日の夕刊過疎は秋
 童塚空蟬する墓標かな

あなたも作品をお寄せくださいー初心者、とくに若い人たちの投稿を
 歓迎します。奇数月の二十日までに神戸河田重喜宛に出して下さい。

曲坂 莉田 清美
 西洞 河田あや子
 日向 田口秋映
 加舎尾 今井周一
 平 安江すみ
 西洞 河田重喜



▲「かばん」
 東白川小学校2年生 中島慶太さん (平)
 ▲「あさがおのたねとり」
 東白川小学校1年生 神戸淳さん (平)



▲「バスケットをしている人」
 東白川小学校5年生 今井慎也さん (大沢)
 ▲東白川小学校4年生 古田真央さん (大口)



小さなアイ
 デアが技術開
 発を生み、そ
 れまで不可
 能であった事
 が可能になる
 という例は意
 外に身近に
 あるものだ。
 ▼雨樋のよう
 な筒を斜めに
 地中に埋めて
 その中へ薯の
 生長を誘導す
 るという自然
 薯の栽培法が
 開発されてか
 らずでに久し
 いが、このお
 かげで私達の
 村でも天然薯
 が生産され、
 ふるさと企画
 のお歳暮のヒ
 ット商品とな
 っている。▼
 その自然薯をつ
 くらっている
 Mさんの話は
 興味深い。霜
 が二回ほどあ
 ったときが堀
 り時とか、一
 本づつ筒を堀
 り起してそっ
 と横たえる、
 丁寧に扱わな
 いと中で折れ
 ては元も子も
 無い。▼筒を
 そっと開くと
 薯が現れる。
 「おっ長いぞ
 ！おっおう
 ー」。薯の長
 さに合わせて
 微妙なイント
 ネーションで
 「おーう」が
 続くという。
 ▼「お、お」
 は意外に短か
 かった時。中
 には筒を外れ
 て予定外の方
 向へ伸びたや
 つもある。「
 お前はどこへ
 行つてるんや
 ……」

(F)

広報ひがししらかわ 10月号 '95.10.15
 発行/東白川村役場 ☎05747(8)3111
 岐阜県加茂郡東白川村神土548
 編集/企画財政課 企画財政係
 印刷/下呂印刷株式会社